

野辺地町国民健康保険
保健事業実施計画
(第2期データヘルス計画)
中間評価報告書



令和4年3月 青森県野辺地町

目 次

第1章 保健事業計画（データヘルス計画）の中間評価について	
Ⅰ 背景	1
Ⅱ 計画期間	1
Ⅲ 目的・目標	1～2
Ⅳ 実施体制・関係者連携	3
Ⅴ 中間評価の趣旨	3
第2章 第二期データヘルス計画の中間評価	4
Ⅰ 被保険者全体の健康水準の評価について	4～5
Ⅱ 第2期データヘルス計画の中間評価と見直し	6～8
Ⅲ 保健事業の中間評価と見直し	9～28
①総合健診（特定健診・がん検診）受診率の向上	9～10
②特定健診結果説明会の保健指導数の向上	11
③国保脳検診の実施	11～12
④精密検査受診率の向上	12～13
⑤運動の習慣化	13～20
⑥動脈硬化性疾患予備軍に対する各種栄養指導の強化	20～21
⑦糖尿病と糖尿病性腎症の予防	21～22
⑧後発医薬品の利用促進	22～23
⑨主体的な健康づくり活動の支援	23～24
第3章 参考資料	25～26

第1章 保健事業計画（データヘルス計画）の中間評価について

I 背景

近年、特定健康診査及び後期高齢者に対する健康診査（以下「特定健診等」という。）の実施や診療報酬明細書（以下「レセプト」という。）等の電子化の進展、国保データベース（KDB）システム（以下「KDB」という。）等の整備により、市町村国保、国保組合及び後期高齢者医療広域連合（以下「広域連合」という。）（以下「保険者等」という。）が健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析、保健事業の評価等を行うための基盤整備が進んでいる。

平成25年6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取り組みを求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされた。

当町では、これまでも保険者等においては、レセプト等や統計資料等を活用することにより、「特定健康診査等実施計画（以下「特定健診等実施計画」という。）」の策定や見直し、その他の保健事業を実施してきたところであるが、今後は、更なる被保険者の健康保持増進に努めるため、保有しているデータを活用しながら、被保険者をリスク別に分けてターゲットを絞った保健事業の展開や、ポピュレーションアプローチから重症化予防まで網羅的に保健事業を進めていくことなどが求められている。

こうした背景を踏まえ、保健事業の実施等に関する指針（厚生労働省告示）国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針（平成16年厚生労働省告示第307号）、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく保健事業の実施等に関する指針（平成26年厚生労働省告示第141号）（以下「国指針」という。）の一部を改正する等により、保険者等は健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画（以下「データヘルス計画」という。）を策定した上で、保健事業の実施・評価・改善等を行うものとした。

これを受けて町では、平成27年に第1期データヘルス計画を策定し、平成30年度に取り組みの更なる強化を目指して、第2期計画を策定した。

II 計画期間

計画期間については、関係する計画との整合性を図るため、保健事業実施指針第4の5において、「特定健診等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」としていることから、具体的には平成29年度中にデータヘルス計画を策定し、計画期間は、「野辺地町特定健康診査等実施計画（第3期）」の計画期間の終期を令和5年としているため統一し、令和5年までとしている。

Ⅲ 目的・目標

本計画における目的・目標を次の通り設定している。

(1) 目的

高血圧症や糖尿病、脳血管疾患などの生活習慣病による死亡を減らし、健康格差を縮小する。

(2) 長期的目標

これまでの健診・医療情報を分析した結果、医療費が高額となる疾患、6カ月以上の入院における疾患、長期化することで高額になる疾患で、介護認定者の有病状況の多い疾患でもある虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症を平成28年度と比較してそれぞれ5%減少させ、医療費の適正化を図る。

(3) 短期目標

中長期目標を達成するために、短期目標を定め、本計画終了期間の令和5年度末での目標を定めている。

課題	生活習慣病の有病率や死亡率が高い。
目的	生活習慣病の予防行動を知り、実践することができる。
目標	特定健診結果説明会参加率の向上、生活習慣病重症化予防。
現状値	平成28年度 97.0%
目標値	令和5年度 100%
設定根拠	特定健診結果説明会実施要綱の目標値

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診有所見者では、国・県・同規模市町村と比較して高血圧状態の割合が大きい。 ・死因の状況では国・県・同規模市町村と比較し、脳疾患の割合が増え、次いで腎不全・糖尿病の割合も高くなっている。 ・健診の状況では血糖・血圧の有所見者が同規模市町村より高い。 ・医療費分析では腎不全（透析あり）にかかる費用が高い。
目的	高血圧を予防、または早期に治療しコントロールすることができる。
目標	特定健診受診率を上げ、早期から生活習慣改善や早期治療につなげる。
現状値	平成28年度 特定健診受診率 28.9%
目標値	令和5年度 特定健診受診率 60.0%
設定根拠	特定健診等実施計画の目標値

課題	<p>運動習慣がない者が多い。 (1回30分以上、週2日以上)の運動習慣がない者の割合が61.5%) ※前回計画策定時より2.9%増 (1日1時間以上の身体活動を行っている者の割合が45.2%) ※前回計画策定時より5.4%増</p>
目的	多様な運動に親しみ、仲間で楽しむことができる。
目標	運動習慣がある者の増加。
現状値	・減る脂～運動クラブ：20分以上、週2回の運動継続した人室内運動79%、

	ポールウォーキング66.7% ・水中運動リフレッシュ教室：20分以上、週3回の運動継続した人50%
目標値	令和5年度 各種運動事業にて、20分以上、週2回以上何らかの運動を継続した人が60%以上
設定根拠	各種運動事業実施要綱の目標値

IV 実施体制・関係者連携

本計画の策定・実施・見直し等については、保健事業を主に実施している健康づくり課及び国民健康保険担当課である町民課に属する職員、保健師が行っている。また、必要に応じて、野辺地町国民健康保険運営協議会・健康づくり推進協議会・健康のへじ21計画推進委員会議等で協議する場を設け、評価・意見の聴取を行っている。

各種データは、健診結果やレセプト、KDBなどの分析データを活用する。

V 中間評価の趣旨

本計画では、中長期的目標の達成のため、必要な保健事業を実施してきた。中間評価にあたる令和3年度においては、平成29年度から令和2年度までに実施した事業の評価と令和4年度から5年度の目標の見直し等を行う。

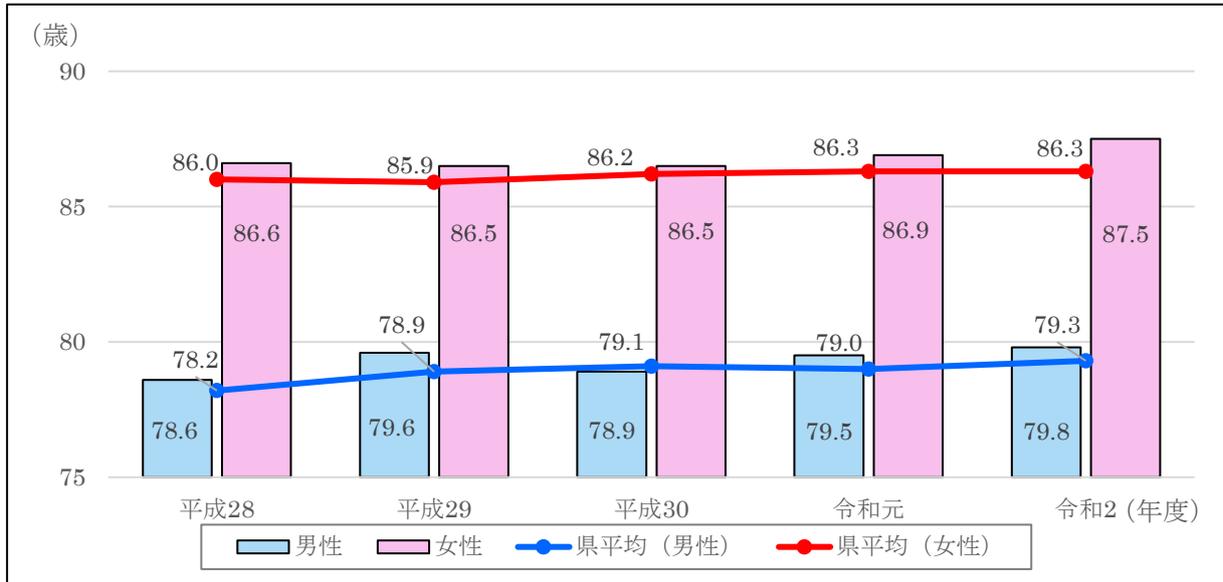
第2章 第二期データヘルス計画の中間評価

I 被保険者全体の健康水準の評価について

(1) 健康寿命の延伸

野辺地町の健康寿命は男女ともに年々伸びており、計画策定時（平成28年度）から令和2年度の期間において、男性1.2歳、女性0.9歳の増となった。

図1-1 健康寿命

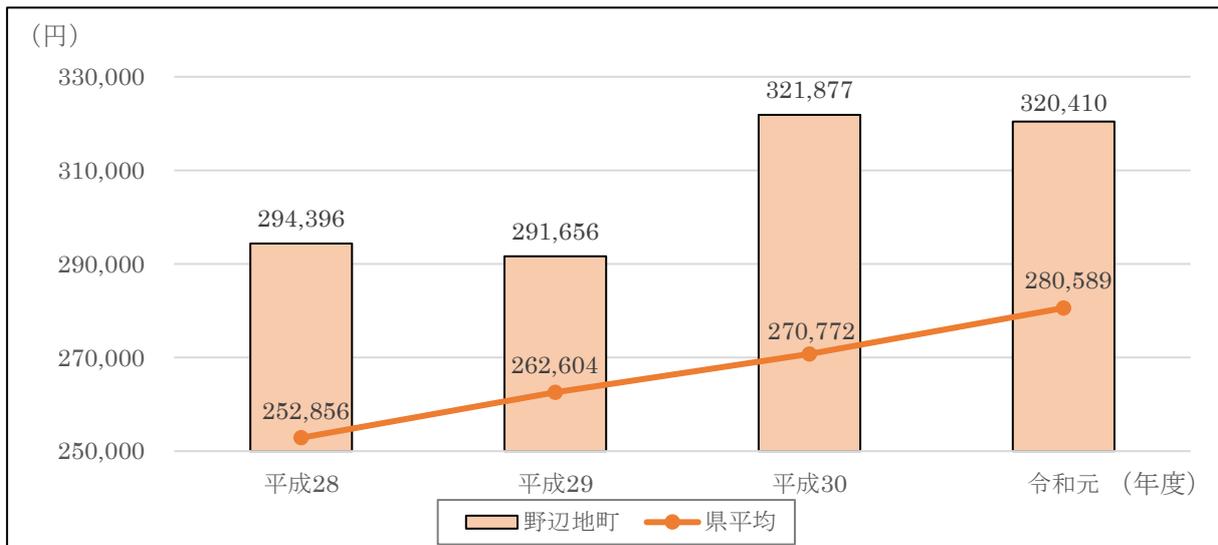


資料：KDBシステム 地域の全体像の把握 平均自立期間（平均余命）

(2) 医療費の適正化

野辺地町の1人当たりの医療費は増加傾向にあり、県平均を上回る状況が続いている。また、県内の他市町村と比較すると、計画策定時（平成28年度）以降、常に上位3位以内に入り続けている状態である。

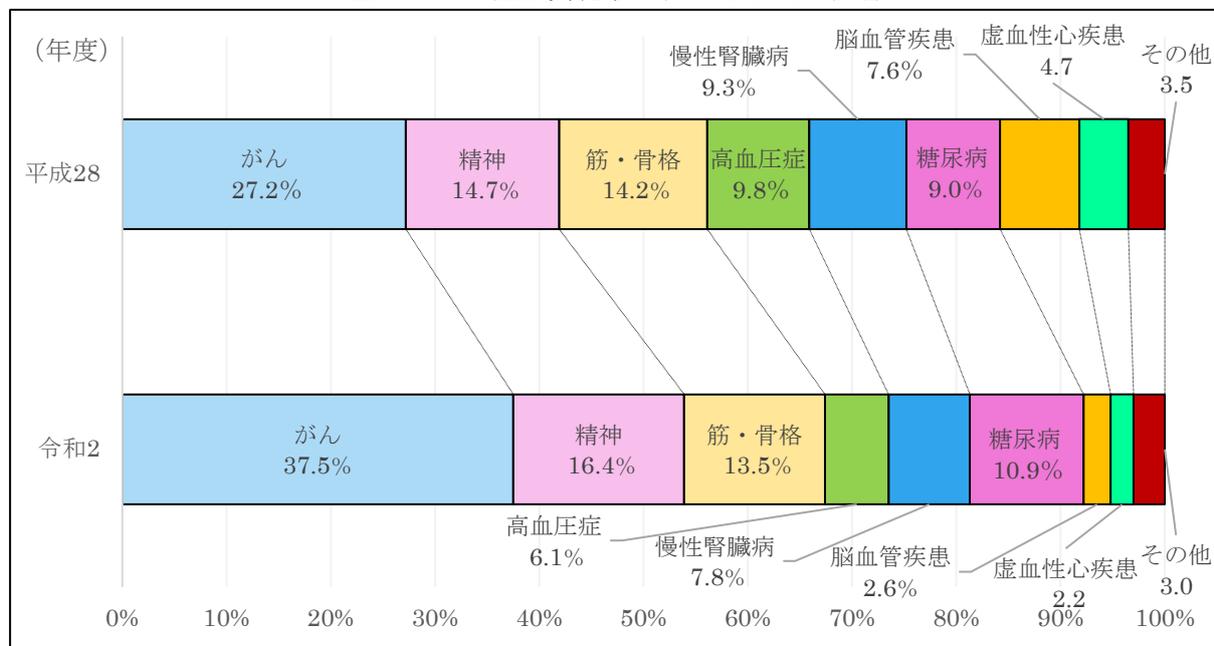
図1-2 1人当たり医療費



資料：統計資料「国民健康保険図鑑」第2表 1人当たり医療費

図1-3は医療費総額に占める疾病の割合を示したものである。計画策定時（平成28年度）と令和2年度を比較すると、「がん」が占める割合が大幅に増加している。「高血圧症」「慢性腎臓病」「脳血管疾患」「虚血性心疾患」の割合は減少しているものの、「がん」を含めた生活習慣病で67.1%と、全体の7割近くを占めている。

図1-3 医療費総額に占める疾病の割合



資料：KDBシステム 健診・医療・介護データからみる地域の健康課題（医療費分析）

II 第2期データヘルス計画の中間評価と見直し

(1) 第2期データヘルス計画の全体評価概要

評価視点	評価指標
アウトカム	事業の目的や目標の達成度、又は成果の数値目標を評価
アウトプット	目的・目標の達成のために行われる事業の結果を評価
プロセス	事業の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や活動状況を評価
ストラクチャー	保健事業等を実施するための仕組みや体制を評価

判定区分	A：達成できている	B：達成できていない・改善が必要
	C：事業継続が困難	D：評価不能

(2) 評価と見直し・改善点

アウトカム（事業の目的や目標の達成度、又は成果の数値目標を評価）			
分析・評価	中長期的目標達成度		
	○虚血性心疾患の医療費		
		医療費	総医療費に占める割合
	平成28年度（策定時）	36,151,490円	4.7%
	平成29年度	16,069,520円	2.3%
	平成30年度	16,943,790円	2.6%
	令和元年度	15,259,490円	2.4%
	令和2年度	14,016,440円	2.2%
	→平成28年度（策定時）の医療費と比較し 61.2%減少		
	○脳血管疾患の医療費		
		医療費	総医療費に占める割合
	平成28年度（策定時）	58,243,660円	7.6%
	平成29年度	29,943,750円	4.3%
	平成30年度	32,801,790円	5.0%
	令和元年度	28,712,580円	4.5%
令和2年度	16,254,570円	2.6%	
→平成28年度（策定時）の医療費と比較し 72.1%減少			
○慢性腎臓病の医療費（カッコ内は総医療費に占める割合）			
	医療費	総医療費に占める割合	
平成28年度（策定時）	71,036,310円	9.3%	
平成29年度	70,027,480円	10.1%	

	平成30年度	57,717,310円	8.8%
	令和元年度	46,778,180円	7.4%
	令和2年度	48,798,670円	7.8%
	→平成28年度（策定時）の医療費と比較し 31.3%減少		
	短期的目標達成度		
	○特定健診結果説明会 保健指導率		
	平成28年度（策定時）：92.3%	平成29年度：91.8%	
	平成30年度：95.3%	令和元年度：98.6%	
	令和2年度：98.4%		
	○特定健診受診率		
	平成28年度：28.9%（策定時）	平成29年度：28.3%	
	平成30年度：28.2%	令和元年度：28.2%	
	令和2年度：未公表	※国保連報告値のため。	
	○各種運動事業にて20分以上、週2回以上何らかの運動を継続した人が60%以上		
	平成28年度（策定時）	ポールウォーキング：66.7%	室内運動：79%
	平成29年度	ポールウォーキング：46.7%	室内運動：75%
		水中運動：81.8%	筋膜リリース：57.1%
	平成30年度	ポールウォーキング：88.9%	室内運動：53.8%
		水中運動：45.5%	筋膜リリース：42.9%
	令和元年度	ポールウォーキング：75.0%	室内運動：42.9%
		水中運動：21.4%	筋膜リリース：52.4%
	令和2年度	室内運動：100%	水中運動：60.0%
		筋膜リリース：40%	
指標判定	中長期的目標：A 短期的目標：B		
アウトプット（目的・目標の達成のために行われる事業の結果を評価）			
分析・評価	中長期的・短期的目標 第2期データヘルス計画において設定した事業は現状分析を行い、その都評価、改善や更新を行い全て実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・スッキリ応援プログラム ・減る脂～運動クラブ（平成29年度から水中運動を含む） ・総合健診 ・特定健診結果説明会 ・特定保健指導 ・各種精密検査（がん検診、結核検診） ・介護第一次予防教室（介護予防サークル・地区での健康教育・運動等） ※介護第二次予防教室については、平成29年介護保険制度改正により介護予		

	防・生活支援サービス事業及び一般介護予防事業が創設されたため、総合事業となった。
指標判定	A
プロセス（事業の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や活動状況を評価）	
分析・評価	<p>中長期的・短期的目標</p> <p>特定健診の受診結果、レセプト情報、KDBシステム等から抽出した統計情報を活用した現状分析を行い、課題抽出するなど事業活動に反映している。</p> <p>※上記情報分析で行った事業改善等の内容は次の保健事業の実施状況にて記載。</p>
指標判定	A
ストラクチャー（保健事業等を実施するための仕組みや体制を評価）	
分析・評価	<p>計画達成に向けた体制が確保され、関係機関等との連携が図れている。</p> <p>【体制・関係機関】</p> <p>体制：健康づくり課及び国民健康保険担当課である町民課</p> <p>関係機関：野辺地町国民健康保険運営協議会、健康づくり推進協議会、健康のへじ21計画推進委員会議等と連携。</p>
指標判定	A
全体判定	B
今後の方向性	<p>中長期的目標</p> <p>国民健康保険被保険者数の減少に伴い、全ての医療費が大幅に減っていることから、各疾患の医療費の金額のみを比較して一概に評価はできないが、金額で言えば約3割から7割程度が減少しており、総医療費に占める割合を見ても全ての疾患で減少傾向にある。これは各種保健事業による成果によるものと考えられるため、今後も継続していくことで更なる医療費の適正化を図る。</p> <p>短期的目標</p> <p>特定健康診査の結果説明会の保健指導率については90%以上と高い数値を維持できている。しかし、特定健診受診率については、策定時と同様の28%前後で推移している。運動事業については年度によってばらつきがあるが、目標を達成している項目もある。</p> <p>そのため、保健事業については現状のまま目標達成及び実績の向上を目指し、引き続き取り組みを推進していく。健診の受診率については、事業自体の見直しを図りながら、受診率向上のための改善点を随時検討し、取り入れ実施する。</p>

Ⅲ 保健事業の中間評価と見直し

①総合健診（特定健診・がん検診）受診率の向上

（1）事業内容（計画当初）

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高血圧をはじめとするメタボリック症候群を予防・早期治療する。 ・がんの早期発見・早期治療につなげる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率 60% ・がん検診受診者数の向上 胃・大腸・肺:それぞれ2,400人、子宮頸部:800人、乳腺800人 ※がん検診はR5年度目標値
対象者	30歳～74歳までの国保被保険者（生保、社保扶養者含む）
実施内容 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に対象者宛に個別案内。集団健診（がん検診と同時実施）および町内外の医療機関において個別検診を実施。 ・漁業者および就労者優先の日や男性・女性専用の日を設け、受けやすい健診づくりを強化。 ・保健協力員や漁協に健診の申し込みのとりまとめなど、多方面からの勧奨を実施する。 ・かかりつけ医を持つ被保険者も多いことから、かかりつけ医療機関からの勧奨をきっかけに健診受診に結び付く受診者も増えている。 ・健診受診日の勧奨通知をハガキで行うことで、受診忘れ対策を実施している。

（2）分析・評価等

現在まで で更新・ 改善され た 実施内容	<p>【平成29年度からの改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託医療機関の充実。（婦人がん検診：八戸西健診センター） ・健診当日の流れの改良と待たせない体制の工夫。 <p>【平成30年度からの改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野辺地町総合健診受診動向調査分析事業の実施。 ・がん検診未受診者対策として、大腸・乳がん検診の受診勧奨を実施。 <p>【令和元年度からの改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の個別案内通知をより見やすく改良。 <p>【令和2年度からの改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診未受診者対策として、特定健診対象者に秋頃受診再勧奨を実施。 ・委託医療機関の充実。 <p>（特定健診・胃、大腸、肺がん検診：八戸西健診センター）</p>
-----------------------------------	---

②特定健診結果説明会の保健指導数の向上

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の意義を理解する。 ・自分の健康度を知りメタボリック症候群の予防・改善策を学び、実践に結びつけることで自分自身の健康管理をすることができる。 ・高血糖や腎機能異常に対するアプローチを強化する。
目標	特定健診結果説明会の保健指導率100%
対象者	特定健診受診者のうち、新規受診者、説明会を一度も受けたことのない方、腎機能・糖代謝異常者（軽度異常含む）、動機付け支援者、積極的支援者
実施内容 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や個別での面接により7月から4月にかけて健診結果説明を実施。 ・説明会欠席者に対する勧奨について、ハガキ送付し、連絡がなかった方全員に電話連絡して状況を確認し、相談日や夜間の面接、訪問、電話での結果説明を実施する。

(2) 分析・評価等

現在までで 更新・改善 された実施 内容	<p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員の協力を得て、だしを使った味噌汁の試飲を実施。対象者の生活に取り入れやすいよう、対象者に沿った保健指導を実施した。 <p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国保連合会より健康教育の教材（フードモデル）を借用し、食習慣がイメージしやすいような内容の保健指導を実施した。
目標値の 経年状況	<p>【目標： 特定健診結果説明会の保健指導率100%】</p> <p>平成28年度（策定時）：92.3% 平成29年度：91.8% 平成30年度：95.3% 令和元年度：98.6% 令和2年度：98.4%</p>
判定	B
分析 改善点	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年的に指導率は向上してきている。 ・欠席者に対する対応（当日参加できない対象者への対応）により、指導率が向上していると考えられるため、今後も引続き対応していく。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より食生活改善推進員の協力を得て、減塩料理の試食を実施し、対象者の生活習慣により入り込んだ保健指導を実施する予定であり、生活習慣改善の動機付けの狙いがある。

③国保脳検診の実施

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	脳および血管の異常を早期に発見し、早期受診につなげる。
目標	精密検査受診率100%
対象者	概ね30歳～74歳までの国保被保険者
実施内容 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に受診申込み、7月～翌年3月まで公立野辺地病院にて実施。要精検・要医療判定者は町から原則個別面接にて受診勧奨を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は、受診者75名のうち、13名の要精検・要医療判定者は全て受診済。平成28年度は受診者77名のうち8名の要精検・要医療判定者は、全て受診済となっている。
--	--

(2) 分析・評価等

現在までで更新・改善された実施内容	<p>策定期間と同様の実施内容で行った。</p> <p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 60～65歳の被保険者に対し、個別に受診勧奨の通知を送付した。
目標値の経年状況	<p>【目標：精密検査受診率100%】</p> <p>平成28年度（策定時）：100% 平成29年度：100% 平成30年度：100% 令和元年度：100% 平成2年度：100%</p>
判定	A
分析改善点	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 要精密検査・要医療判定者は町から全て個別面接にて対応し、受診勧奨を実施しているため、対象者はすぐに医療受診し、精密検査受診率は100%となっている。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の実施内容と同様に行い、目標値を維持していく。

④精密検査受診率の向上

(1) 事業内容（計画当初）

目的	健診データが基準値を超えていたら、受診して適切な行動がとれる。
目標	精密検査受診率100%
対象者	特定健診およびがん検診受診者のうち受診勧奨値となった方
実施内容期間	<ul style="list-style-type: none"> がん検診要精検と判定された方全員に原則面接にて受診勧奨。 特定健診要精検と判定された方は、レセプトデータで受診の有無を確認。 少なくとも2回、精検再勧奨を実施。

(2) 分析・評価等

現在までで更新・改善された実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診要精検者の勧奨について、1回は勧奨を実施していたが、2回目を実施していなかった。 その他は策定期間と同様の実施内容で行った。 						
目標値の経年状況	<p>【目標：精密検査受診率100%】</p> <p>○特定健診精密検査受診率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受診率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度 (策定時)</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>78.3%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	受診率	平成28年度 (策定時)	72.2%	平成29年度	78.3%
年度	受診率						
平成28年度 (策定時)	72.2%						
平成29年度	78.3%						

	平成30年度	74.8%				
	令和元年度	60.9%				
	令和2年度	69.3%				
	○がん検診精密検査受診率					
	年度	胃	大腸	肺	子宮	乳
	平成28年度 (策定時)	92.1%	85.4%	97.1%	100%	93.5%
	平成29年度	94.7%	87.8%	93.3%	100%	100%
	平成30年度	92.5%	90.9%	94.4%	100%	100%
	令和元年度	92.2%	93.1%	90.2%	100%	100%
	令和2年度	90.7%	84.3%	90.6%	100%	100%
判定	B					
分析・改善点	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の精密検査受診率については、高い受診率を維持しており、婦人がん検診の精密検査受診率は近年100%と目標値を維持している。 ・特定健診の精密検査受診率については、策定時から比べ低下してきている。1回目の受診勧奨と共に、2回目の受診勧奨の必要性が高いと考えられる。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の精密検査対象者について、1回目の受診勧奨後未受診者に2回目の受診勧奨を実施する。 ・現在の実施内容と改善点を踏まえ、事業を実施し目標値を維持していく。 					

⑤運動の習慣化

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	メタボリック症候群を予防・改善する。
目標	各種運動事業を行うことにより、運動についての正しい知識を身につけるとともに運動を習慣化し、自身の健康を自分で管理する。
対象者	概ね40～74歳の国保被保険者
実施内容 期間	<p>通年および秋から3月にかけて実施。指導者(健康運動指導士等)と保健師が綿密に連携し、参加者個人へのきめ細かい支援を行う。</p> <p>①スッキリ応援プログラム：運動・栄養の完全個別指導。</p> <p>②減る脂～運動クラブ：H29年度よりポールウォーキングと室内運動に、水中運動・筋膜リリースを加え、月1～2回ずつ通年で実施。</p>

(2) 分析・評価等

<p>現在まで 更新・改 善された 実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度より、参加者自身が自分に合った運動を選択できるよう4つの運動コース（ポールウォーキング・室内運動・水中運動・筋膜リリース）とした。 ・令和元年度より、参加費をまとめて支払うことができることとした。 ・令和元年度より、筋膜リリースに4つのテーマを設定し、実施した。 ・令和3年度より、ポールウォーキングを特別講座として実施することとした。 																								
<p>目標値の 経年状況</p>	<p>【目標：運動についての正しい知識を身につけるとともに運動を習慣化し、自身の健康を自分で管理する。】</p> <p>①スッキリ応援プログラム</p> <p>○食事目標：食事指導をうけて、週4日以上普段の食事に気を付けることができたか。</p> <p>○運動目標：運動を1回あたり20分以上を週2回以上をおこなっているか。</p> <p style="text-align: center;">目標達成率（やや実行は率に反映）</p> <table border="1" data-bbox="384 831 1110 1167"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>食事目標</th> <th>運動目標</th> <th>自己目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度 (策定時)</td> <td>71.4%</td> <td>71.4%</td> <td>64.3%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>68.8%</td> <td>62.5%</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>63.6%</td> <td>45.5%</td> <td>54.5%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>54.5%</td> <td>72.7%</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>58.8%</td> <td>70.6%</td> <td>35.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②減る脂～運動クラブ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価指標</p> <p>(1) 20分以上、週2回以上何らかの運動を継続した人が50%以上</p> <p>(2) 血圧</p> <ul style="list-style-type: none"> ①130/90mmHg未満の参加者の血圧が運動前後共に130/90mmHg以上にならない ②血圧130/90mmHg以上の参加者の血圧が運動後に低下する ③130/90mmHg以上の参加者の血圧が事業実施前よりも低下する <p>(3) BMI</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事業開始時BMI25未満の参加者のBMIが25以上にならない ②事業開始時BMI25以上の参加者の内、50%が体重減少する <p>(4) 体脂肪率</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事業開始時体脂肪率標準以内(女性30%、男性25%未満)の参加者が、事業終了時標準以上にならない ②事業開始時体脂肪率標準以上の参加者の内50%が事業終了時低下する <p>(5) 体を動かすことのこちよさ、楽しさを感じることができた人が9割以上。</p> </div>	年度	食事目標	運動目標	自己目標	平成28年度 (策定時)	71.4%	71.4%	64.3%	平成29年度	68.8%	62.5%	37.5%	平成30年度	63.6%	45.5%	54.5%	令和元年度	54.5%	72.7%	27.3%	令和2年度	58.8%	70.6%	35.3%
年度	食事目標	運動目標	自己目標																						
平成28年度 (策定時)	71.4%	71.4%	64.3%																						
平成29年度	68.8%	62.5%	37.5%																						
平成30年度	63.6%	45.5%	54.5%																						
令和元年度	54.5%	72.7%	27.3%																						
令和2年度	58.8%	70.6%	35.3%																						

平成28年度（策定時）

ポールウォーキング

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	66.7%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していた。血圧の低下に効果的な内容であったと考える。また、運動前に比べ運動後は血圧が低下していたことから、達成された。
(3)	①100% ②77.8%
(4)	①33.3% ②23.5%
(5)	100%

室内運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	79%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していることから、指標は達成された。
(3)	①100% ②57.1%
(4)	①91.7% ②88.9%
(5)	94%

平成29年度

ポールウォーキング

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	46.7%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していた。血圧の低下に効果的な内容であったと考える。また、運動前に比べ運動後は血圧が低下していたことから、達成された。
(3)	①93.3% ②63.6%
(4)	①40% ②50%
(5)	93.3%

室内運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	75%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していることから指標は達成された。
(3)	①93.3% ②30.1%
(4)	①62.5% ②45.5%
(5)	93.7%

水中運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	81.1%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に運動後の血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していたことから、指標は達成された。
(3)	①25% ②40%
(4)	①50% ②25%
(5)	100%

筋膜リリース

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	57.1%
(2)	評価指標 (2) に関して①③は達成できたが、②は達成できなかった。
(3)	①100% ②0%
(4)	①100% ②72%
(5)	92.9%

平成30年度

ポールウォーキング

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	88.9%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していることが多かったため、血圧の低下に効果的な内容であったと考える。また、運動前に比べ運動後は血圧が低下していたことから、指標は達成された。
(3)	①100% ②87.5%
(4)	①11.1% ②50%
(5)	88.9%

室内運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	53.8%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していることから、評価指標 (2) については達成された。
(3)	①100% ②66.7%
(4)	①80% ②83.3%
(5)	92.3%

水中運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	45.5%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に運動後の血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していたことから、指標は達成された。
(3)	①12.5% ②100%
(4)	①100% ②30.8%
(5)	100%

筋膜リリース

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	42.9%
(2)	参加率が低迷し、継続参加者がほぼいなかったため、運動効果についての評価はできなかった。
(3)	//
(4)	//
(5)	100%

令和元年度

ポールウォーキング

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	57.1%
(2)	運動後の血圧下降効果はみられていたが、初回に基準値以上の参加者の血圧が年度後半に初回血圧より低下することはなく、運動前は基準値以上であった。よって、指標達成とはならなかった。
(3)	①12.5% ②50%
(4)	①12.5% ②37.5%
(5)	75%

室内運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	42.9%
(2)	初回で基準値より血圧が高かった参加者は徐々に血圧が低下しており、初回で基準値内の参加者は基準値以上になることなく安定していることから、評価指標 (2) については達成された。
(3)	①100% ②37.5%
(4)	①100% ②76.9%
(5)	85.7%

水中運動

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	21.4%
(2)	運動後に血圧上昇する方が多かった。基準値以上の方が基準値以下となることは少なかったが、基準値以下の方が基準値以上となることはなかったため、目標は達成されなかった。
(3)	①100% ②33.3%
(4)	①35.2% ②26.7%
(5)	100%

筋膜リリース

指標	測定値やアンケートによる達成率
(1)	52.4%
(2)	運動後に血圧上昇する方が多かった。基準値以上の方が基準値以下となることは少なかったが、基準値以下の方が基準値以上となることはなかったため、達成されなかった。
(3)	①100% ②33.3%
(4)	①93.1% ②60%
(5)	95.2%

令和2年度

ポールウォーキング

今年度は、委託可能な事業所がなかったために、ポールウォーキングの実施がかなわず、室内運動・水中運動・筋膜リリースの3コースで事業を実施した。

	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">室内運動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>測定値やアンケートによる達成率</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>42.8%</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>運動後に血圧低下する参加者が多かったため目標は達成され た。</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>①100% ②100%</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>①100% ②50%</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">水中運動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>測定値やアンケートによる達成率</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>運動後に血圧が下降する参加者が多かったため目標は達成され た。</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>①83.3% ②66.7%</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>①100% ②60%</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">筋膜リリース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指標</td> <td>測定値やアンケートによる達成率</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>基準値以上の方が基準値以下となることは少なかったが、基準 値以下の方が基準値以上となることはなかった。よって、指標 は達成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>①100% ②100%</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>①100% ②75%</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	室内運動		指標	測定値やアンケートによる達成率	(1)	42.8%	(2)	運動後に血圧低下する参加者が多かったため目標は達成され た。	(3)	①100% ②100%	(4)	①100% ②50%	(5)	100%	水中運動		指標	測定値やアンケートによる達成率	(1)	60%	(2)	運動後に血圧が下降する参加者が多かったため目標は達成され た。	(3)	①83.3% ②66.7%	(4)	①100% ②60%	(5)	100%	筋膜リリース		指標	測定値やアンケートによる達成率	(1)	40%	(2)	基準値以上の方が基準値以下となることは少なかったが、基準 値以下の方が基準値以上となることはなかった。よって、指標 は達成できなかった。	(3)	①100% ②100%	(4)	①100% ②75%	(5)	100%
室内運動																																											
指標	測定値やアンケートによる達成率																																										
(1)	42.8%																																										
(2)	運動後に血圧低下する参加者が多かったため目標は達成され た。																																										
(3)	①100% ②100%																																										
(4)	①100% ②50%																																										
(5)	100%																																										
水中運動																																											
指標	測定値やアンケートによる達成率																																										
(1)	60%																																										
(2)	運動後に血圧が下降する参加者が多かったため目標は達成され た。																																										
(3)	①83.3% ②66.7%																																										
(4)	①100% ②60%																																										
(5)	100%																																										
筋膜リリース																																											
指標	測定値やアンケートによる達成率																																										
(1)	40%																																										
(2)	基準値以上の方が基準値以下となることは少なかったが、基準 値以下の方が基準値以上となることはなかった。よって、指標 は達成できなかった。																																										
(3)	①100% ②100%																																										
(4)	①100% ②75%																																										
(5)	100%																																										
判定	B																																										
分析・改善点	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スッキリ応援プログラムの参加者は、食事の目標については5割以上達成できている。運動の目標も令和元年度以降は5割以上達成できている。運動の目標については、運動の習慣化を指標としているため、参加者の5割以上が達成できている。 ・ 自己の目標については、5割以下の達成度となっている。その理由として体重や腹囲、各検査数値の減少を自己目標にしている参加者が多く、秋から3月までの月1回程度の運動指導・食事指導では各数値の減少までは至っていない参加者が多かった。 ・ 減る脂～運動クラブについては、評価指標(5)体を動かすことのこちよさ、楽しさを感じることができた人が9割以上については毎年度達成できている。 																																										

	<p>・評価指標(2)について、血圧の平均値で分析・評価しているため、具体的にどの程度達成されているのかが評価できなかった。</p> <p>【改善点】</p> <p>・評価指標(2)について、具体的な数値で分析・評価するために、次年度より分析・評価方法を検討していく。</p> <p>・以上の分析により、目標は100%でないものもあるため、達成できていない。今後も事業を継続して実施し、毎年度評価をおこない、適宜事業内容を変更・充実させることにより、目標達成に近づけていく。</p>
--	--

⑥動脈硬化性疾患予備群に対する各種栄養指導の強化

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	健全な食生活を伝え、生活習慣病を予防する。
目標	効果的な減塩、野菜摂取量の増加方法を学び、家庭で実践し習慣化することができる。
対象者	概ね40～74歳の国保被保険者
実施内容 期間	<p>・秋から3月にかけて実施。地域の健康リーダーらと連携して、町の健康課題をテーマにミニ講義と調理実習を実施。</p> <p>・野辺地町の特産物（こかぶ、ほたて等）を活用したメニューも取り入れる。</p>

(2) 分析・評価等

現在までで 更新・改善 された実施 内容	<p>・令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業形態を小集団規模とし、ミニ講座と調理実習を実施している。</p>																			
目標値の 経年状況	<p>【目標：効果的な減塩、野菜摂取量の増加方法を学び、家庭で実践し習慣化することができる。】</p> <p>減る脂〜クッキング（令和2年度より健康づくりワークショップ） アンケート集計表 ※平成30年度からアンケートによる集計を実施。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>減塩の工夫を家庭で 取り入れている。</th> <th>野菜を食べる量 を家庭で増えた。</th> <th>食事のバランス に気を付けてい る。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>88%</td> <td>88%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>平成元年度</td> <td>71%</td> <td>67%</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>平成2年度</td> <td>71%</td> <td>67%</td> <td>79%</td> </tr> </tbody> </table>				年度	減塩の工夫を家庭で 取り入れている。	野菜を食べる量 を家庭で増えた。	食事のバランス に気を付けてい る。	平成30年度	88%	88%	90%	平成元年度	71%	67%	79%	平成2年度	71%	67%	79%
年度	減塩の工夫を家庭で 取り入れている。	野菜を食べる量 を家庭で増えた。	食事のバランス に気を付けてい る。																	
平成30年度	88%	88%	90%																	
平成元年度	71%	67%	79%																	
平成2年度	71%	67%	79%																	
判定	B																			
分析 改善点	<p>【分析】</p> <p>アンケートの集計により、参加者の5割以上が家庭での効果的な減塩、野菜の摂取を取り入れ、食事のバランスに気を付けていると考えられる。</p> <p>【改善点】</p> <p>以上により、100%の達成率でないため目標は達成されていないが、事業を継</p>																			

	<p>続いて実施し、毎年度評価をおこない、適宜事業内容を変更・充実させることにより、目標達成に近づけていく。</p>
--	--

⑦糖尿病と糖尿病性腎症の予防・改善

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	糖尿病や糖尿病性腎症を予防・改善する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の受けた特定健診や血液検査の結果を正しく理解する。 糖尿病や糖尿病性腎症についての、自身の行動（糖尿病未受診者の受診、治療中断者の治療再開、これらの対象者に必要な生活改善等）を認識するとともに、実践に移すことができる。 自身に合った取り組みを実行し、検査値や体調等の効果を実感する。
対象者	概ね40～74歳の国保被保険者で、条件を満たす方
実施内容・期間	8月～翌年3月で、対象者に糖尿病ストップ大作戦（糖尿病性腎症重症化予防事業）参加勧奨し、主治医と情報を共有し、治療再開・医療受診・保健指導等を実施する。

(2) 分析・評価等

現在までで更新・改善された実施内容	策定期間と同様の実施内容で行った。																																				
目標値の経年状況	<p>【目標：</p> <p>①自分の受けた特定健診や血液検査の結果を正しく理解する。</p> <p>②糖尿病や糖尿病性腎症についての、自身の行動（糖尿病未受診者の受診、治療中断者の治療再開、これらの対象者に必要な生活改善等）を認識するとともに、実践に移すことができる。</p> <p>③自身に合った取り組みを実行し、検査値や体調等の効果を実感する。】</p> <p>糖尿病ストップ大作戦 （実施状況・指導結果）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象者</th> <th>保健指導終了者</th> <th>治療再開者 (勧奨により)</th> <th>介入拒否 連絡不通</th> <th>検査希望者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度 (策定時)</td> <td>23人</td> <td>19人</td> <td>10人</td> <td>4人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>9人</td> <td>8人</td> <td>3人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>11人</td> <td>10人</td> <td>6人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>9人</td> <td>9人</td> <td>3人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>9人</td> <td>8人</td> <td>6人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	対象者	保健指導終了者	治療再開者 (勧奨により)	介入拒否 連絡不通	検査希望者	平成28年度 (策定時)	23人	19人	10人	4人	0人	平成29年度	9人	8人	3人	1人	0人	平成30年度	11人	10人	6人	1人	0人	令和元年度	9人	9人	3人	1人	0人	令和2年度	9人	8人	6人	0人	0人
年度	対象者	保健指導終了者	治療再開者 (勧奨により)	介入拒否 連絡不通	検査希望者																																
平成28年度 (策定時)	23人	19人	10人	4人	0人																																
平成29年度	9人	8人	3人	1人	0人																																
平成30年度	11人	10人	6人	1人	0人																																
令和元年度	9人	9人	3人	1人	0人																																
令和2年度	9人	8人	6人	0人	0人																																
判定	B																																				
分析改善点	<p>【分析】</p> <p>①・②に関して、特定健康診査の結果説明会事業で糖代謝が軽度異常値～異常値の対象者にはほぼ全てに保健指導を実施できており、糖尿病ストップ大作戦の事業対象者にもほぼ全員に保健指導を実施することができている。</p>																																				

	<p>治療を再開した方は全体の3～4割で、対象者全員が治療を再開することはできなかった。③に関しては、検査希望者が0人のため数値として目標を分析することができない。</p> <p>【改善点】</p> <p>治療を再開できた対象者はいたが全員ではなく、分析ができない目標があった。そのため、事業をより効果のあるものとするために、糖尿病ストップ大作戦事業の内容を検討、対象者の治療再開を促し、効果的に事業を実施していく。</p>
--	---

⑧後発医薬品の利用促進

(1) 事業内容（計画当初）

目的	医療費の適正化を図る。
目標	後発医薬品へ切り替えることによって医療費を抑える。
対象者	国保被保険者であって、後発医薬品へ切り替えることによって1月あたりの自己負担額に200円以上の差額が生じる方
実施内容 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬明細書情報に基づき、新薬から後発医薬品に切り替えた場合の自己負担額の差額について、年約6回の通知を行う（町単独で導入したシステムを活用）。 ・平成27年度の軽減効果は約210万円、平成28年度は22万円で、切替額が減少傾向にある。これは、ある程度、切替が済んでしまったことが要因と考えられるため、今後は、未切替者及び切替の割合が低い60-64歳、70-74歳をターゲットにした勧奨強化を行っていく。

(2) 分析・評価等

現在まで で更新・ 改善され た実施内 容	・策定期間と同様の実施内容で行った。
目標値の 経年状況	<p>【目標： 後発医薬品利用割合 80%】</p> <p>平成28年度（策定時）：76.2% 平成29年度：77.8% 平成30年度：81.1% 令和元年度：82.2% 平成2年度：84.1%</p>
判定	A
分析 改善点	<p>【分析】</p> <p>・政府が目標としている後発医薬品使用割合80%は、平成30年度以降は達成しているが、後発医薬品に切り替えが出来る方はほとんど切り替えが済んでおり、これ以上の軽減効果の増加は見込めない状況である。</p> <p>【改善点】</p> <p>・これまで町単独で導入したシステムを使用し通知を送付していたが、令和3年</p>

	度より国保連合会へ委託し、圧着ハガキでの通知を開始。これまでと違った様式での通知により切り替えが済んでいない被保険者の目に留まり、意識付けをすることにより、利用割合増加を狙う。
--	--

⑨主体的な健康づくり活動の支援

(1) 事業内容 (計画当初)

目的	健康寿命の延伸、介護予防及び医療費の適正化を図る。
目標	主体的に健康づくり活動に取り組む人を増やす。 ※対象者の3%の参加。 ※事業参加者が条件をクリアする割合80%
対象者	20歳以上の全町民 ※地域包括ケアの視点を踏まえ、国保被保険者に限定しない。
実施内容 期間	・7月上旬から3月上旬まで実施を予定（毎年度担当課協議によって決定する）。 ・特定健康診査（人間ドッグ、職場健診等）等の結果を添付して参加申込みをした方の、対象事業（保健、介護、予防、社会教育分野の各種事業）への取組状況に応じ、町の共通商品券を交付する。

(2) 分析・評価等

現在までで 更新・改善 された実施 内容	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内のプール施設にて開催している健康ウォーターマラソンスタンプラリー参加者を対象として試験的に事業を開始。 <p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象事業を保健、介護、予防、社会教育分野の各種事業へ拡大し、本格実施。 <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度のアンケート集計結果をもとに、個人が日常生活で取り組んでいる健康に関する活動（毎日の体重測定・血圧測定・歩数記録・食事記録等）や歴史民俗資料館で実施する健康に関する事業を対象事業に追加した。 <p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、多くの対象事業で中止や開催規模の縮小等があり思うようにポイントが獲得できない状況が続いたため、自主的に取り組んでいる運動等や、日々の努力により健診結果の数値が改善されている場合もポイント付与の対象とした。 ・特定健診の受診率が低迷していることから、受診率向上を狙い各種健康診査の受診により付与するポイント数を増加した。 																
目標値の 経年状況	<p>※平成29年度については、対象事業を限定した試験的実施だったため評価しない。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> <th>商品券獲得者数</th> <th>獲得割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>234人</td> <td>112人</td> <td>47.9%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>285人</td> <td>141人</td> <td>49.5%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>225人</td> <td>132人</td> <td>58.7%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	参加者数	商品券獲得者数	獲得割合	平成30年度	234人	112人	47.9%	令和元年度	285人	141人	49.5%	令和2年度	225人	132人	58.7%
年度	参加者数	商品券獲得者数	獲得割合														
平成30年度	234人	112人	47.9%														
令和元年度	285人	141人	49.5%														
令和2年度	225人	132人	58.7%														
判定	B																

<p>分析 改善点</p>	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数については、目標とする300人まで近づいていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあって令和2年度では伸び悩んでいる。 ・商品券獲得者数については、目標とする80%には届かないものの獲得割合は確実に伸びてきている。 ・参加者数、商品券獲得割合の目標は達成できてない状態だが、アンケートの集計結果より商品券獲得を目指して運動事業への参加回数が増えた、参加意欲が高まった、運動が習慣化したという声が多くあったため、主体的に健康づくり活動に取り組む人を増やすという目標の達成には一定の進歩があると考ええる。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の延伸や医療費適正化を目指す上で、1番重要視される20～50歳代の働き盛りの世代の参加者数、商品券獲得者数が少ないため、平日に仕事をしている人でも参加しやすい事業作りが必要となってくる。そのためには個人が行っている健康に関する活動に対する制度の強化が必要である。また、認知度も低いため、事業内容の改善とともに、事業の周知にも力を入れていく必要がある。
-------------------	---

第3章 参考資料

I 評価・見直しの整理表

野辺地町国民健康保険保健事業実施計画（第2期データヘルス計画）の中間評価は次のとおりです。

●中長期的な目標について

目標		実績値			
指標	目標値	平成28年度 (計画策定時)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医療費 適正化	虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病	虚血性心疾患医療費 36,151,490円(4.7%)	虚血性心疾患医療費 16,069,520円(2.3%)	虚血性心疾患医療費 16,943,790円(2.6%)	虚血性心疾患医療費 15,259,490円(2.4%)
	性腎症を令和5年度までにそれぞれ5%減少。	脳血管疾患医療費 58,243,660円(7.6%)	脳血管疾患医療費 29,943,750円(4.3%)	脳血管疾患医療費 32,801,790円(5.0%)	脳血管疾患医療費 28,712,580円(4.5%)
		慢性腎臓病医療費 71,036,310円(9.3%)	慢性腎臓病医療費 70,027,480円(10.1%)	慢性腎臓病医療費 57,717,310円(8.8%)	慢性腎臓病医療費 46,778,180円(7.4%)

●短期的な目標について

目標		実績値			
指標	目標値	平成28年度 (計画策定時)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
①特定健診結果説明会参加率 ②特定健診受診率 ③運動習慣がある者の増加	①令和5年度までに100%。				
	②令和5年度までに100%。	①92.3%	①91.8%	①95.3%	①98.6%
	③令和5年度までに各種運動事業にて、20分以上、週2回以上何らかの運動を継続した人が60%以上。	②28.9%	②28.3%	②28.2%	②28.2%
		③ボール：66.7%	③ボール：46.7%	③ボール：88.9%	③ボール：75.0%
		室内運動：79.0%	室内運動：75%	室内運動：53.8%	室内運動：42.9%
			水中運動：81.8%	水中運動：45.5%	水中運動：21.4%
			筋膜リリース：57.1%	筋膜リリース：42.9%	筋膜リリース：52.4%

実績値	評価	達成要因	未達成要因	今後の方向性	最終目標値
令和2年度	A	国民健康保険被保険者数の減少に伴い、全ての医療費が大幅に減っていることから、各疾患の医療費の金額のみを比較して一概に評価はできないが、金額で言えば約3割から7割程度が減少しており、総医療費に占める割合を見ても全ての疾患で減少傾向にある。 このことから疾患の発症、重症化等の予防につながる取組の推進が必要。	— (中間評価時点での評価困難)	今後も保健事業等を継続していくことで更なる医療費の適正化を図る。	適正化
虚血性心疾患医療費 14,016,440円(2.2%)					
脳血管疾患医療費 16,254,570円(2.6%) 慢性腎臓病医療費 48,798,670円(7.8%)					

実績値	評価	達成要因	未達成要因	今後の方向性	最終目標値
令和2年度	B	特定健康診査の結果説明会の保健指導率については90%以上と高い数値を維持できているが、その反面、特定健診受診率については、策定時と同様の28%前後で推移している。運動事業については年度によってばらつきがあるが、目標を達成している項目もある。このことから効果的な受診勧奨や健診体制の整備・拡充が必要であり、生活習慣病に起因する疾病予防に対する取り組みの推進が必要。	①健診結果から自身の生活習慣を見直す必要性の認識不足。 ②健診受診が習慣化していない。働き盛り世代の健診受診率の低値。 ③自宅で運動継続することの課題。	保健事業については現状のまま目標達成及び実績の向上を目指し、引き続き取組を推進していく。健診の受診率については、事業自体の見直しを図りながら、受診率向上のための改善点を随時検討し、取り入れ実施する。	①100% ②60% ③各種運動事業にて20分以上、週2回以上何らかの運動を継続した人が60%以上
①98.4% ②未公表 ③室内運動：100% 水中運動：60.0% 筋膜リリース：40.0%					

**野辺地町国民健康保険保健事業実施計画
(第2期データヘルス計画)
中間評価**

発行日 令和4年3月

発行 野辺地町 町民課 健康づくり課

〒039-3164 青森県上北郡野辺地町字野辺地 123 番地 1
電話 0175-64-2111 (代表)